

祖父母・

「子孫・祖父母」による慈善活動が、 家族ガバナンスにおける一要素としての考 察

中国には、「祖父母と孫は親にとって天敵である」という諺がある。この諺に真実があるかどうかは誰にも断言できないが、歴史や文学、そして私自身の経験のすべてが、
、祖父母と孫との関係が純粋な愛に満ちていることを示している。祖父母としての役割は、しつめに気を配ったり、戒めを通じて家族のネガティブな経験を伝承したりするという親としての義務を負うことなく、家族に前向きな美德や物語、神話を教える機会を与えてくれる。

私が家族を支援する仕事をする中で、祖父母から「家族の統治において自分たちはどのような役割を果たせるのか」と尋ねられることがよくあります。彼らはしばしば、子供たちとの直接的な関係に不安を感じており、私たちほとんど全員がそうであるように、子育てにおいて自分たちが犯した過ちを痛感しています。彼らは、過去の関係における困難を消し去ることはできないと認めつつも、子供たちとの間で、現在および将来に向けた成熟した「共存の道」を模索しています。こうした歴史的背景がある以上、家族ガバナンスにおける親と子の役割は、家族を守ろうとする対等な関係となるでしょう。また、それぞれの年齢を考慮すると、通常は子たちが、家族の資産の運用や管理において、積極的なガバナンスの責任を担うこととなります。親の世代は、観察者の役割へと移行し、そして最も重要なこととして、紛争解決の必要が生じた際には長老としての役割を果たすことになるでしょう。後者の役割は、家族ガバナンスを成功させる上で極めて重要ですが、その性質上、めったに求められることのない役割でもあります。現代人の長寿化を考慮すると、65歳の人々に、

基本的に受動的な役割を担うよう求めることは、重要な家族資産の活力を無駄にするだけである。同時に、次世代が家族ガバナンスにおいて能動的な役割を担うことを許さなければ、彼らの不満を招き、また別の形で家族資産の浪費が生じることになる。

すべての家族資産を十分に活用することの望ましさ、および前述した祖父母と孫の間の特別な関係を踏まえると、この特別な関係の中でこそ、家族は長老たちの活力と知恵をより有効に活用できると私は考える。私は、家族がこの目的を達成するための手段として、慈善活動を活用することを提案する。慈善活動は、それ自体が、他者に与えるプロセスを通じて美德を学ぶための実践的な教育手段である。祖父母が家族経営において積極的な役割を果たすための手段としての慈善活動は、孫たちに家族の美德、とりわけ感謝の心と財産管理の価値を教えることになる。これにより、そのような祖父母と孫の関係は、家族経営において特に強力な役割を果たすことになる。

このような慈善活動はどのように機能するのでしょうか。まず、対象となる年齢層（6歳から始めることをお勧めします）を考えると、50ドルから100ドル程度の贈り物でも幼い子供たちには非常に大きな金額に感じられるため、規模については小規模に考えることをお勧めします。

第二に、可能な限りシンプルな仕組みを採用することを提案します。もしその家族がすでに大規模な私的慈善活動を展開している場合は、この特定の目的のために資本のわずかな部分を割り当てることをお勧めします。そのような慈善活動が存在しない場合は、10,000ドル以上の金額であれば、ほとんどのコミュニティ財団を通じて「ドナー・アドバイズド・ファンド」を設定することができます。

第三に、6歳以上のすべての孫をこの慈善活動の対象に含めることをお勧めします。一部の家族では、孫たちの年齢差が20歳以上にも及ぶ場合があります。こうした年齢差があるにもかかわらず、孫たちは祖父母への愛情や敬意という点で共通の絆を持っており、それが年齢の隔たりを乗り越える結びつきを生み出していることが分かっています。さらに、信託を設定している家庭では、孫たちが年齢による区別なく受益者グループを形成していることがよくあります。グループとして、すべての孫は信託において同じ経済的利益を共有しています。この経済的立場の類似性により、しばしば

年上の孫たちが、共通の状況下で年下の孫たちを指導し、リードする必要性を生じさせることが多い。
こうした状況の類似性は、グループ内にさらなる共通点の架け橋を築くことになる。

第四に、12歳以上の孫たちは、慈善活動のための投資・運営委員会を設立すべきです。「与えること」を学ぶ上で慈善活動がもたらすメリットは容易に理解できますが、慈善活動がビジネスであり、家族の営みにおける営利部門に即座に応用可能な、必要な投資・運営スキルを習得するための教育の場となり得るという点を、私たちはしばしば見落としています。私は、祖父母が投資および運営の責任を、できるだけ早く年長の孫たちに委ねることを強く推奨します。祖父母はこの役割において、孫たちのメンターやアドバイザーとして行動すべきです。もちろん、孫たちの能力に確信が持てるようになるまでは、祖父母が最終的な意思決定権を保持すべきです。

第五に、すべての孫と祖父母で助成金委員会を結成することを提案します。各孫が毎年助成金を申請することが重要だと考えています。しかし、助成金の申請や採決のプロセスは、孫の学びの経験にとって、また祖父母がそのプロセスを指導する能力にとって極めて重要です。私は、6歳以上の子供であれば誰でも、助成金の申請を提案し、その必要性を主張することができると考えています。当然のことながら、孫の年齢が高くなるほど、助成対象者に関する書面資料の提出を求められるべきです。また、孫が10歳以上の場合、申請の一環として、提案された助成対象先の現地を視察した旨、あるいはそれが不可能な場合は、その代表者へのインタビューを行った旨を明記することを強く推奨します。書面資料や現地視察も重要ですが、助成金申請プロセスの真に重要な部分は、孫・祖父母による慈善団体の年次総会において、申請を行う孫自身が行う口頭発表です。この総会では、各助成対象者に、自身の助成金申請について発表するよう求められます。プレゼンテーションの後、祖父母および他の孫たちは、細心の注意と愛情を込めてその申請内容を検討し、その後、申請について投票を行うべきである。10歳以上の年長の孫の場合、助成金が賢明に使用されることを確実にするための質問、提案、および追加の課題の要求は、年齢が上がるにつれて増やすべきである。最年長の孫については、

孫たちに対して、祖父母は、助成金の申請先となる団体において何らかの形で積極的に関わるよう求め、孫たちにも「自分たちの役割を果たす」ことを求める場合もあるでしょう。祖父母の立場からすれば、孫たちと一緒に座って彼らの情熱について語り合い、彼らがどのような人間なのかを知ることほど楽しいことはあるでしょうか。孫たちの立場からすれば、祖父母の知恵や、彼ら自身の寄付に関する物語を通じて祖父母を知ることが、祖父母に対する理解と敬意を深めることになるでしょう。孫たちは、大いに楽しみながら、家族の知恵や伝統に導かれていくことになるのです。

第六に、孫たちの親をこのプロセスから可能な限り排除することが極めて重要です。この排除は敵意のある行為ではありません。それどころか、この世代を超えた寄付と分かち合いのプロセスを機能させるためには、親たちは二世世代間の直接的な交流を積極的に促進したくなるはずであり、自分たちの介入がそのプロセスを阻害するだけであることをすぐに理解するでしょう。確かに、親との関係がうまくいっていない、あるいは悲しいことに断絶している人の中には、この慣習に何のメリットも見出せない人もいるだろう。彼らは、自分が親から受けたと感じた「危害」を、今度は自分の子供に与えてしまうのではないかと懸念するかもしれない。私はその気持ちに深く共感しており、そのようなケースでは、親子の関係が修復されるまでは、この慣習は適切ではないかもしれないと提案したい。

第七に、上記の第五点で述べた助成金交付のプロセスには、重要なライフスキルが隠されています。各孫が前に出て自分の要望を述べる際、その子は、他者のために情熱を持って主張し、何かを求めることを学ぶだけでなく、人前で話すスキルやリーダーシップというライフスキルも身につけているのです。私の大人のクライアントたちが、「若い頃に人前で話すことへの不安を克服する方法を学んでおけばよかった」と口にする回数は、数え切れないほどです。彼らは、人々の集まる場に入って何かを頼むことへの恐怖、議題や提案書を作成できないこと、そして自分が情熱を注いで信じる立場をうまく主張できないこと——そうした不安や無力感を克服できていればと願っているのです。もし私たちが若い頃にこれらのスキルを身につけていたら、人生においてどれほど大きな成功を収めていたか、考えてみてください。「孫と祖父母の慈善活動」の秘訣は、助成金の申請を行い、その必要性を訴える過程において、愛と思いやりに満ちた雰囲気の中で、これらすべてのスキルが発揮され、

、その結果が自分自身ではなく他者の利益となるのです。私が関わっている多くの家族は、この形態のフィランソロピーを確立し、これらのスキルを教え、実践するための手段として積極的に活用しています。こうした家族は、若者が家族内外で指導的役割を担う準備を整えるためには、こうしたスキルが不可欠であり、それらがそのような役割を成功裏に遂行し、最終的には家族ガバナンスの実践とリーダーシップを成功させるために必要不可欠であることを理解しています。

他者への「与える」行為を通じて自身の情熱について学ぶことと、これらの人生スキルを学ぶことを組み合わせることで、孫と祖父母による慈善活動は、家族ガバナンスの枠組みにおいて優れたツールとなります。祖父母にとっては、自身の知恵と孫たちへの愛情を存分に活かせるレベルで、家族ガバナンスにおいて積極的な役割を果たす機会となります。祖父母にとっても孫にとっても、他者に与えることを学ぶプロセスを通じて、世界とそのニーズを発見していく中で、お互いがどのような存在であるかを理解し合う共有体験をもたらします。

なんて楽しいんだ！！楽しんで！！

Copyright ©1999 by James E. Hughes, Jr